

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



2012年度環境活動レポート

(対象期間:2012年 10月～2013年 9月)

発行日: 2014年1月10日
改定日: 2014年8月7日

《有限会社 金田商事 環境方針》

□ごあいさつ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」
まずは、身近な金属から。

弊社は、「資源の掘り起こし・再発見」を推し進め、微力ながら循環型社会形成の一助となることで、社業も発展させていくことを目標としております。
そのために、社員一丸となって粛々と事業を行なって参ります。

有限会社 金田商事

取締役社長

金田 大地

<環境理念>

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める努力を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境方針を定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
- ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
- ③節水による水資源使用量の削減。
- ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正処理を推進するため、取扱量の増加を目指す。
- ⑤グリーン購入の推進。
- ⑥地域貢献活動の実施。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日

改定日：2011年07月07日

取締役社長

金田 大地

□登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社: 兵庫県伊丹市口酒井2丁目7番21号
本社工場: 同上

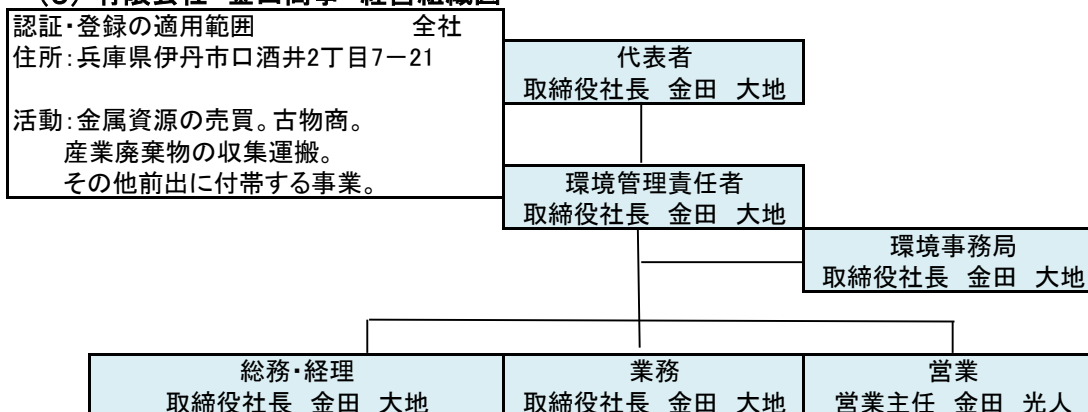
(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金300万円

(5) 有限会社 金田商事 経営組織図



・株主 1名。

・取締役(役員) 1名

・監査役の選出義務なし。

小規模企業のため、部・課・部門 等の設置は行なっていません。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

(6) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708
担当者 同上

(7) 事業内容(認証・登録の範囲)

- ・金属くず商
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・古物商
- ・その他前出に付帯する事業

(8) 事業の規模

総売上高 3.34億円 (2012年度)

主要商品取り扱い量 6,215t (2012年度)

※事業年度期末時点

活動規模	単位	2007年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
取り扱い数量	t	8,018	7,120	6,052	6,388	6,215
内訳: 金属スクラップ	t	8,007	7,108	6,045	6,378	6,210
内訳: 産業廃棄物 (収集運搬)	t	11	12	7	10	5
産業廃棄物(収集運搬)	m ³	0	0	0	0	0
売上高(税抜)	百万円	477	286	324	281	334
従業員	人	3.0	4.0	4.0	5.0	5.0
床面積	m ²	580	580	580	580	580
保有貨物車両台数	台	3	3	3	3	3
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	3	3	4	4	4

(9) 関連諸許可

金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

◆主たる区分: 事務機器類

◆扱い品目: 自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 02700132377号

許可の年月日:平成24年1月22日

許可の有効年月日:平成29年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分: 積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.紙くず 3.木くず 4.繊維くず 5.ゴムくず 6.金属くず

7.ガラスくず 8.がれき類 (石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上8種類

2.許可の条件 なし

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

平成24年1月18日許可更新

平成24年1月18日変更許可

以下余白

4.府内の政令市による積替え許可の有無 無

5.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 有

(10) 施設の状況

保有設備

運搬車両	台数
10t積み平ボディ車	1
7t積み平ボディ車	1
4t積みユニック搭載平ボディ車	1
荷役車両	台数
2.5t揚力フォークリフト	3
油圧式バックホー(0.25m ³ クラス)	1
乗用車両	台数
普通乗用車	1
軽自動車	1

※取引先構内車を含む。

(11) 処理実績

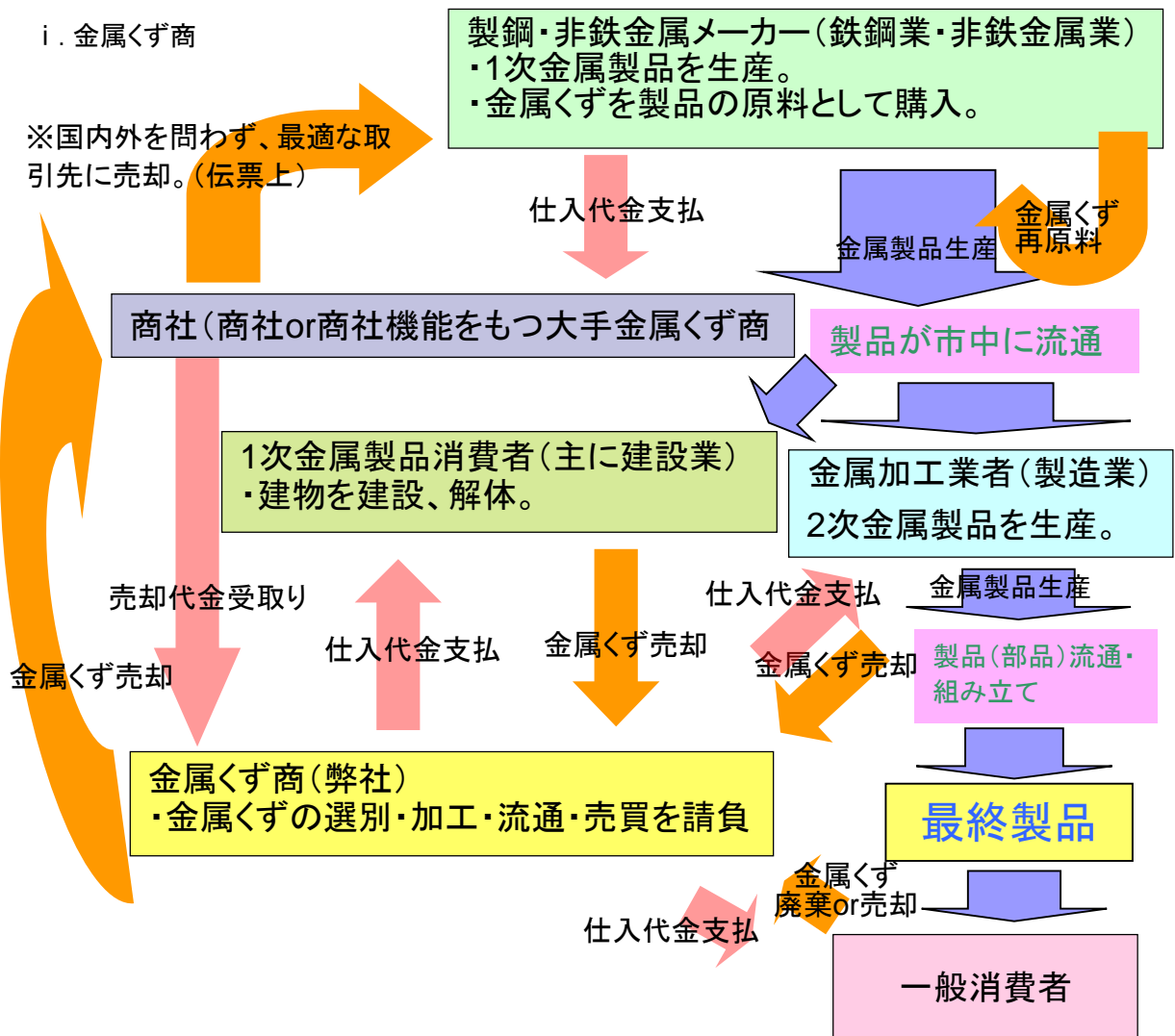
産業廃棄物(収集運搬)	単位	2007年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
廃プラスチック	t	11	12	7	10	5
産業廃棄物収集運搬 合計	t	11	12	7	10	5

(12) 廃棄物処理料金

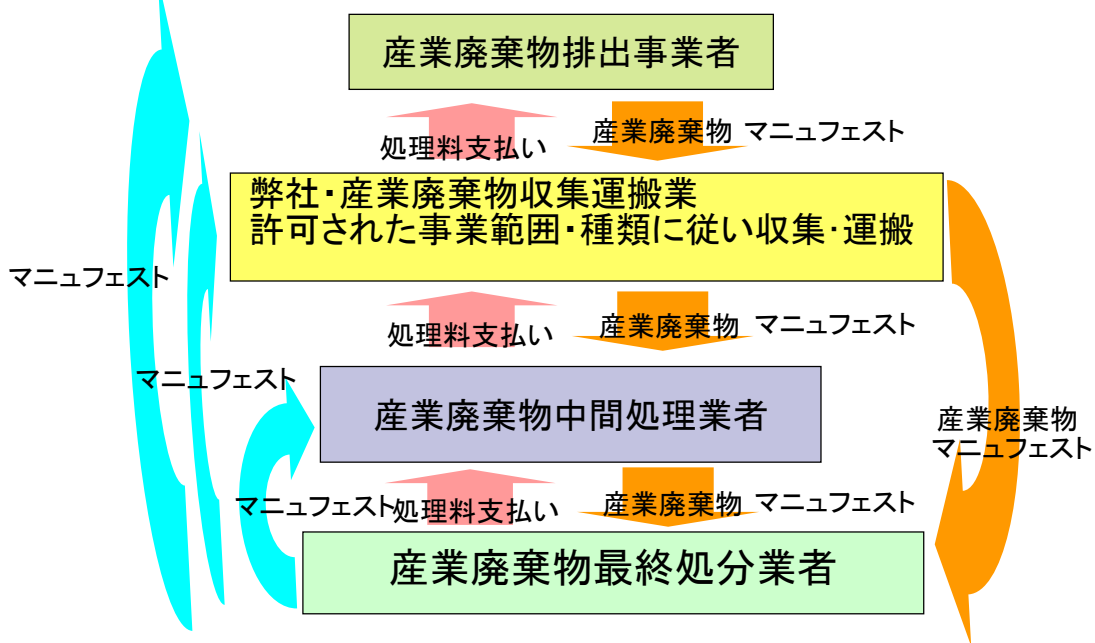
取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

(13) 事業計画及び事業概要

i. 金属くず商



ii. 産業廃棄物収集運搬



(14) 事業年度 10月～9月

□主な環境負荷の実績

項目	単位	基準年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	58,434.20	48,375.70	44,061.96	42,753.24	53,350.32
廃棄物排出量	kg/年	1,620.00	3,260.00	5,460.00	5,456.00	8,652.00
一般廃棄物排出量(自社)	kg/年	170.00	920.00	900.00	240.00	240.00
一般廃棄物排出量(選別)	kg/年				630.00	1,130.00
産業廃棄物排出量(自社)	kg/年	1,450.00	2,340.00	4,560.00	80.00	80.00
産業廃棄物排出量(選別)	kg/年				4,506.00	7,202.00
総排水量	m ³ /年	24.00	32.00	37.00	36.00	36.00
受託した産業廃棄物の処理量	トン/年	11.43	12.13	6.99	9.92	5.48

※小数点以下の処理方法につき、「目標設定書」と許容可能な極少誤差が生じています。

□環境目標及びその実績

*2009年度末までは、電力使用量の二酸化炭素排出係数は0.378kg-CO₂/kWhを使用。

*2010年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.366kg-CO₂/kWhに変更使用。

・環境負荷削減目標

*2012年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO₂/kWhに変更使用。

項目	年度	基準値	2012年度		2013年度	2014年度
		(基準年度)	(目標)基準年度比96%	(実績)	(目標)基準年度比95~95.5%	(目標)基準年度比95~%
1.電力の二酸化炭素排出量削減(2011年度基)	kg-CO ₂	4,850.10	4,656.10	5,486.44	4,631.84	4,607.59
2.軽油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	43,236.03	41,506.59	40,794.11	41,290.39	41,074.23
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	4,900.91	4,704.87	4,052.81	4,680.49	4,655.97
4.灯油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	358.84	344.48	0.00	342.69	340.90
5.LPGの二酸化炭素排出量削減(基準年度を通期使用実績のある2008年度に変更)	kg-CO ₂	5,088.32	4,884.79	3,016.97	4,859.33	4,833.91
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	58,434.20	56,096.83	53,350.32	55,804.75	55,512.59
6.一般廃棄物の削減	(kg/年)	170.00	163.20	240.00	161.50	従業員1人当り0.056t/年以下
7.産業廃棄物の削減	(kg/年)	1,450.00	1,392.00	80.00	1,377.50	商品数量1t/0.18kg以下
※7.有価物から除去廃棄物	(kg/年)			8,332.00		
8.節水	(m ³ /年)	24.00	23.04	36.00	37.50	37.50

*1.電力の二酸化炭素排出量削減基準を2011年度とし、以後二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO₂/kWh

・取り扱い数量目標

項目		年度		2011年度	2012年度		2013年度	2014年度
		(基準年度)	(目標)前年度比 103%	(実績)	(目標)前年度比 102%	(目標)前年度比 102%		
9.金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:基準年度比103%)	トン/年	6,378.15	6,569.49	6,209.60	6,333.79	6,460.46		
10.受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:基準年度比103%	トン/年	9.92	10.22	5.48	5.59	5.70		

・グリーン購入の推進

項目		年度		基準年度実績	2012年		2013年	2014年
		前年度実績	(目標)前年度比+1品・点	(実績)	(目標)前年度比+1品・点	(目標)前年度比+1品・点		
11.グリーン購入の推進 単位:品数・点数	品数・点数/年	6	7.00	8.00	8	10		

・地域貢献活動

項目		年度		2009年	2012年		2013年	2014年
		(基準年度)実績	(目標)基準年度比+1回・+1本	(実績)	(目標)基準年度比+1回・+1本	(目標)基準年度比+1回・+1本		
12.弊社周辺の環境美化と付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回/年	1	2.00	8	3	4		
清掃活動…空き缶・ペットボトル拾い	単位:本/年	19	20	51	21	22		
項目		年度		2009年	2012年		2013年	2014年
		(基準年度)実績	(目標)基準年度比101%	(実績)	(目標)基準年度比102%	(目標)基準年度比103%		
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	単位:kg/年	1,745.70	1,763.16	101,067.10	1,780.61	1,798.07		

□環境活動の取り組み計画と評価、次年度の取り組み内容

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
1.電力の二酸化炭素排出量削減	基準年度	4,850.10	kg-CO2	目標未達成
*2011年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO2/kWhに変更使用。 ①冷暖房の控えめな使用(冷房28℃ 暖房20℃) ②クールビズ・ウォームビズ運動 ③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。 上記 達成手段実践状況評価 ①…○設定温度を遵守できている。 ②…○適当な服装ができた。 ③…○必要な場所以外消灯している。	目標	4,656.10	kg-CO2	悪い。累計で全12か月目標未達。月次では、念願の目標達成を1回、残り11ヶ月で、目標未達成となった。目標値比117.83%で、消費量超過。最大の課題であった業務効率が向上し、設備投資と人員増員によって、時間外労働時間は、短縮傾向にあるが、常時電源ONのPCが1台増加し、消費量増加(簡易計算:100w/h×2電源×14h×25日=70kw/h)。期待より効果が出ず、大変残念だ。来年度は、さらに節電できるよう努力したい。
	実績	5,486.44	kg-CO2	
	削減量	-830.34	kg-CO2	
	目標対実績比率	1.18		
				冷暖房・照明効率を上げる為の施策を検討、実行する。
2.軽油の二酸化炭素排出量削減	基準年度	43,236.03	kg-CO2	目標達成
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…× 車両の買い替え無し。 ⑤…△ 自主点検・清掃のみ。	目標	41,506.59	kg-CO2	評価: やや良。月次5回・累計目標12回を達成。使用量は、目標値比を僅かに、1.71%下回る結果。因みに、基準年度比は、5.49%削減。運搬・移動ルートの改善、過頻度な納品の自粛等を行なっているが、スクラップの店頭買いが増え、一昨年度末に導入した荷役重機(バックホー)の稼働率上昇に伴い、消費量が増加。前年度比28.5%増加、目標値比に肉薄しており要注意だ。削減策励行を指示。
	実績	40,794.11	kg-CO2	
	削減量	712.48	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.98		
				荷役重機(バックホー)のエコ操業を行なう。
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	基準年度	4,900.91	kg-CO2	目標達成
エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…× 車両の買い替え無し。 ⑤…△ 自主点検・清掃のみ。	目標	4,704.87	kg-CO2	評価: 良。年間累計目標値比13.85%削減。月次目標値を達成できない月が、前年度は5回、本年度は3回となり、改善が見られる。ただ、使用量が、前年度より増加しており、営業・企業活動を行ないながら、いかに環境負荷を軽減するかを考える必要がある。
	実績	4,052.81	kg-CO2	
	削減量	652.07	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.86		
				燃費管理について、原単位での個別評価の採用を検討したが、事務作業が煩雑すぎる欠点がある。今後、容易な管理方法を考案中。

取り組み計画	達成状況	単位	評価 結果と次年度の取組内容	
4.灯油の二酸化炭素排出量削減	基準年度	358.84	kg-CO2	目標達成
①暖房の控えめな使用 エアコンを併用 暖気循環 ②設定温度18℃(暖房20℃以下) ③ウォームビズ運動 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 設定温度を守っている。 ③…○ 貸与制服に防寒具を加えた。	目標	344.48	kg-CO2	評価:非常に良い。通年全12ヶ月において、使用実績無し。電力使用による暖房(空調)と比較し、どちらがCO2を削減でき、空調効率も良いのか見極め、今後は柔軟に対応することとした。
	実績	0.00	kg-CO2	
	削減量	344.48	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.00		寒冷期には、冷気を遮断する断熱シートの使用を決定。
5.LPGの二酸化炭素排出量削減	基準年度	5,088.32	kg-CO2	目標達成
(基準年度は2008年度) エコドライブ運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③車両整備・点検の実施 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 速度超過警報器を装備済み。 ③…△ 自主点検・清掃のみ。	目標	4,884.79	kg-CO2	評価:優良。月次目標12回・累計目標12回達成。目標値比38.2%下回り、前年度比18.29%削減。しかし、すべてはスクラップの取扱量減少に起因するものであり、手放しでは喜べない結果である。ただ、ドライバーの意識も高く、荷役効率が高い。一層のエコドライブを指示。
	実績	3,016.97	kg-CO2	
	削減量	1,867.82	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.62		ひきつづき、フォークリフトのエコドライブ・エコ操作を心がける。

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
6.一般廃棄物の削減 ※基準年度10月～2月は、一般廃棄物の発生が無かったので、評価は、1面的です。 ①分別ボックスの設置 ②裏紙使用 ③古紙のリサイクル化 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 可燃・不燃・資源と分別。 ②…○ 裏紙ファイル設置済み。 ③…○ 再生事業者へ売却。	基準年度	170.00	kg	目標未達成
	目標	163.20	kg	一部ペーパーレス化を実現。目標達成には、至らなかったが、良い数値となった。また、再資源化量(古紙リサイクル業者引き渡し)が把握できていることを評価。発生量平均20kg/月は低位だと思う。今後、発生量が大幅に増えることが無いよう管理していく。 分別ボックス(エリア)を設置し、再資源化できないごみは、廃棄、資源ごみは集積し、引き渡している。 参考情報:商品の取り扱いに準じて発生する一般廃棄物 内訳:選別発生量1,130kg、再資源化量(有価物として再生事業者へ引き渡し)1,050kg、再資源化率92.92%
	実績	240.00	kg	
	削減量	-76.80	kg	
	目標対実績比率	1.47		
7.産業廃棄物の削減 ①分別ボックスの設置 ②分別意識の向上を目的とした社員教育 ③分別の徹底による有価物化 上記 達成手段実践状況評価 ①…△ 大まかな品目ごとに分別。 ②…△ 別段教育は行っていないが、品目ごとの分別は皆行っている。 ③…△ 一部再生事業者へ売却。	基準年度	1,450.00	kg	目標達成
	目標	1,392.00	kg	評価:良い。前年度年間累計0.04t、当年度同0.08tと倍加したが、1年間を通し、各月で廃棄物発生量は、0ないし10kg/月程度であり、良く抑制されている。もともと、業種的にリサイクル意識が高く、廃棄物処分=コスト発生という発想から、分別等により、廃棄物としない、出さない姿勢が全社に行き渡っていることの象徴だと思う。 参考情報:商品の取り扱いに準じて発生する産業廃棄物 内訳:選別発生量7,202kg、再資源化量(有価物として再生事業者へ引き渡し)5,782kg、再資源化率88.65%
	実績	80.00	kg	
	削減量	1,312.00	kg	
	目標対実績比率	0.06		

取り組み計画	達成状況		単位	評価結果と次年度の取組内容
8.節水	基準年度	24.00	m ³	目標未達成
①洗車頻度と使用水量の管理 ②手洗用水量の適正化	目標	23.04	m ³	<p>評価:可。許容範囲。前々期に算出した従業員1名当たり年間使用量8m³程度をもとにすると、従業員1名0.67m³/月。今期12ヶ月間で使用量36m³とすると従業員1名0.60m³/月。となり、使用量が微減している。評価に値する。今後も、出来る限りの節水を行う。</p> <p>無駄遣いをせず、使用量が大幅に増加しないように今後管理していくことに重きを置くようにした。</p>
	実績	36.00	m ³	
上記 達成手段実践状況評価 ①…△ 洗車は、ほとんど行っていない。 ②…○ 手洗い時の水の出っ放しをしないよう指示教育した。	削減量	-12.96	m ³	
	目標対実績比率	1.56		
9.有価物の取り扱い量増加	基準年度	6,378.15	t (トン)	目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	6,569.49	t (トン)	<p>評価:評価:やや悪い。月次目標達成3回、累計目標は、12ヶ月すべて達成ならず。取扱量増加をめざし、新規導入した設備は、よく活用できており、店頭買いの量、作業効率ともに向上。当年度は、円高が定着していた前半の成績が芳しくなく、やはり製造業の仕事量に左右させている。新規仕入顧客の獲得と業種バランスを取ることが急務である。</p> <p>取り扱い数量を伸ばす目的で、人員1名増員。11月より、週3回の定期引取りをご依頼の取引先を得た。一層の顧客掘り起こしと、提案力・価格競争力の強化も継続。絶対値としての環境負荷が増すことになるが、省力化された資源のリサイクルフローを目指す。次年度は、当年度比102%へ引き上げることが目標。</p>
	実績	6,209.60	t (トン)	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 仕入顧客登録数前期末比純増数525件 ②…○ 新規取扱品目を案内した。 ③…○ 新規売上先開拓。 ④…○ 海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確保。	増加量	-359.89	t (トン)	
	目標対実績比率	0.95		
10.産業廃棄物の取扱量増加	基準年度	9.92	t (トン)	目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	10.22	t (トン)	<p>評価:やや悪い。利益面から収集運搬よりも、主軸の金属スクラップ取引に、経営資源を傾注しているため、取扱高増加の目標は達成出来ていない。また現状、人員・車両に余裕が無く、産廃収取運搬業務には、配置が難しい。</p> <p>現状、人員・車両に余裕が無く、産廃収取運搬業務には、配置が難しいが、平準化された効率的業務が行える定期収取運搬契約を獲得するめどが立てば、増強も検討することとした。</p>
	実績	5.48	t (トン)	
上記 達成手段実践状況評価 ①…× 新規契約数前期末比純増数0件 ②…× 既存産廃処理事業者との関係性により、積極営業に出れなかった。 ③…× 経理的基礎を重視するため、価格の減額を行なわなかった。 ④…○ 関連省庁、業界団体のHP	増加量	-4.74	t (トン)	
	目標対実績比率	0.54		
11.グリーン購入の推進	基準年度	5	品・点数	目標達成
・環境負荷を低減した購買品目を前年度より、1品数・点数以上増加させる。〔単位:品数・点数〕	目標	6	品・点数	<p>評価:良い。消耗品を中心に、グリーンマーク、エコマーク、省エネマーク等のリスト中の物品やリサイクル品の購入を行っていることを評価。また、インターネット注文により、間接的CO2の削減が行なえていることも評価。今後も知識を深め環境負荷低減を目指していく。</p> <p>バージン製品より、品質の劣るリサイクル品を購入し、本末転倒のないようスペックの確認を行なうようにする。</p>
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ マークのリストを備え置いた。	実績	8	品・点数	
	増加量		品・点数	
	目標対実績比率			

取り組み計画	達成状況		単位:回・本	評価 結果と次年度の取組内容
12.地域貢献活動	基準年度	1 19	回 本	目標達成
①清掃活動。 投棄された空き缶・ゴミ拾い。 実施回数と回収量 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 日常の清掃に加え、清掃日を設け行うことが出来た。	目標	2	回	評価:良い。清掃活動は前期4回から今期8回へと4回増やすことが出来た。空き缶等金属くずに関しては、弊社の得意とするリサイクル資源として処理した。 地域にて、金属資源に関する要望や提案があれば、積極的に関与していく。
	実績	8 51	回 本	
	増加量		回 本	
	目標対実績比率			
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。 目標:買い受け数量を前年度比1%増加させる。 主要買受け品目:アルミ缶・金属製不用品 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 自治会・子供会、伊丹市内在住の方から幅広い買取りを行うことが出来た。	基準年度	1,745.70	kg	目標達成
	目標	1,763.16	kg	周辺住民の集計対象(企業・商店を除く)を弊社のある伊丹市を含む隣接6市町村に広げた結果、買い取る金属くずの品目・数量が大幅に増えた。資源の有用性を知って頂くことができた。 今後も、より知識を広める活動を行なうことで、地域に貢献できるよう努力したい。
	実績	101,067.1	kg	
	増加量		kg	
	目標対実績比率			

□環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境法規制等の名称	要求事項(事業者の義務・責務)、遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)
廃棄物処理法(収集・運搬業務)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事業者、処理委託先、報告等)
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上)第21条の4
フロン回収破壊法	事務所空調機
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証 参照。
自動車から排出される窒素化合物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車Nox・PM法)	自動車NOx・PM法 適合車の使用。
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃車時
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵・冷凍庫、洗濯機の廃棄時

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

□外部からの苦情

本活動期間中、近隣住民様の苦情申し立てにより、振動及び騒音につき、伊丹市 環境保全課の訪問を再度受けた結果、騒音対策として電動シャッターを導入し、構内作業時にはシャッターを閉じることで、ご理解、ご納得いただきました。

■代表者による全体の評価と見直し

・12項目中、達成が7項目、未達成が5項目となり、全体評価は前年度と同じ結果となった。CO2の排出量は、実績(基準年度)対実績(本年度)で、7.9%減、目標(本年度)対実績(本年度)では、3.92%減となり、削減率が落ち、目標値に肉薄するほど排出量が増加している。導入した荷役重機(バックホー)の稼働率上昇に伴い、消費量が増加している。エコ操業が求められる。廃棄物全般は、選別と分別により、良く管理とコントロールが行なわれ、商品の取り扱いに準じて発生する一般・産業廃棄物の再資源有価物化は、81.99%と高水準。商品・産廃取扱量は前年度よりも減少しており、営業力不足が悔やまれる。しかしながら、仕入顧客登録数前期末比純増数525件と前年度より高い伸び率を見せており、顧客当たりの取引数量を伸ばすことが課題である。今後の目標は、前年度同様、取組計画、業績に直結する3項目(9.有価物の取り扱い量増加、10.産業廃棄物の取扱量増加、12.地域貢献活動②)を如何に環境負荷を低減した効率的なシステムで達成していくかが持続可能性の面でも重要課題であり、目標達成に向け努力する所存である。

取締役社長

金田 大地

□その他の取り組みを紹介

①冷暖房効率を上げるための断熱シート貼り。

冷暖房効率を上げ、空調機使用による電力消費を低減＝CO2排出量削減を目的に外気に触れる窓へ断熱効果のあるシートを貼りました。



②業務効率の向上

(秤量連動システム導入、情報共有、使用する紙枚の削減、スタンバイOA機器の機数減少。)

- 1 秤量連動システムを導入し、商品管理のシステムを一元化。重複する作業や手計算を削減。複数端末からの事務作業を可能にし、手順や手待ち時間を解消。
- 2 PCワークグループ上に、共有フォルダを作成し、情報共有を簡易化・迅速化した。MS officeプログラムやPDF、画像(.jpg .gif)の活用により、情報伝達のペーパーレス化を推進。また、スマートフォンアプリの活用により、場所を選ばず業務に必要な情報を得られるようにした。
- 3 罫線等印刷された専用伝票、カーボン複写伝票の使用をやめ、普通紙・ミシン目入り普通紙を事務業務で使用することにした。
- 4 印刷やスキャニングを行なうOA機器を1台の複合機に集約し、待機電力の削減、トナー・インク等の資源使用も削減。LAN接続により、各端末からの作業も行えるようにした。

以上